

マリライフ

[Vol. 280]



えたじまの海ってどんな色をしているのかな？
えたじまの海って、どんな生き物が暮らしているんだろう？
プロのデザイナーと一緒に描いてみましょう！

概要

このワークショップでは「紙版画」という技法を使って、自分が感じた江田島の海の姿を表現します。できあがった作品は、ひとりひとり違う世界にひとつだけの「海の物語」です。デザイナーと一緒に楽しく、思い切り表現してみましょう！できあがった作品は、後日さとうみ科学館や市内の施設等で展示する予定です。また、江田島市教育委員会が発行する教材へ掲載する場合があります。

日にち：2025年8月30日（土）

時間：14:00～16:30

対象：江田島市内小学生4年生～中学3年生

参加費：無料

定員：先着20名（事前申込制）

申込：8月28日（木）までに、
右記QRコードもしくは、
さとうみ科学館へ直接ご
連絡ください。

主催：江田島市教育委員会

問合せ：さとうみ科学館

（0823）57-2613



↑
申し込みはこちら

講師紹介



全国で活動する株式会社シカクはことばとデザインで思いを届けるプロの集団です。



コピーライター・クリエイティブディレクター
原 晋(はら すすむ)さん

言葉やデザインのかで、お店やイベント、まちの魅力を伝えるお仕事をされています。これまでに、お菓子やスポーツチーム、駅やお店のデザインなど、いろんなジャンルのお仕事を担当されています。



グラフィックデザイナー
川島 康太郎(かわしま こうたろう)さん

お店やイベント、本の表紙やポスターなど、たくさんのデザインを手がけるデザイナーです。これまでに書籍や冊子、ポスター、ロゴマーク、サイン計画（まちの案内になるデザイン）など幅広いデザインを担当してきました。

この夏、江田島で広がった学び！

子どもから大人、海外の学生まで多彩な人々が自然を観察！この夏、江田島は学びでいっぱい！



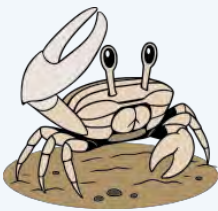
瀬戸内こども牡蠣調査団が江田島を調査！

7月24日と25日に、牡蠣を通して広島の海を学ぶ「瀬戸内こども牡蠣調査団」が開催されました。この企画は、一般社団法人瀬戸内プロジェクト in 広島が行ったものです。公募により集まった県内の小学5年生から中学2年生22名が、江田島を舞台に、里海の自然や牡蠣養殖現場を調査し、人の手が加わることで豊かな環境が守られている里海とその海で育まれる牡蠣について、そして持続可能な牡蠣養殖について学びました。24日は「さとうみ科学館」に来館し江田島の海と生態系について学んだ後、港で採集したプランクトンを観察したり、島戸川河口干潟でカニたちやアマモ場の稚魚などを観察したりと、多様な生き物や里海が山の栄養に支えられる仕組みを学びました。



国際色豊かな学生たちが里海の生態系を学ぶ！

8月1日から10日間、広島県内各地で「自然資源管理における対立と協力～積極的平和とSDGs」をテーマに、国籍・文化・専門の異なる学生が交流しながら、国際課題や平和構築を学ぶ合うプログラムが行われました。7日には、プログラムに参加する米国コロンビア大学や広島大学の学生やスタッフ約60名が来館。西原館長が「海洋生物の生態系調査とさとうみ自然資源」について講義を行い、質疑応答では、市行政との連携に関する質問など掘り下げた内容も飛び出す活発な意見交換が行われました。講義後は野外でハクセンシオマネキなど江田島の生き物を間近で観察しました。江田島での経験や広島での学びを、それぞれの国に持ち帰り、今後の活動に生かしていただければと思います。



生物愛あふれる先生たちが、生き物観察！

8月8日、広島の県立高校で生物を教える理科の先生方の研修会が開かれ、さとうみ科学館での講義と野外観察の実習を行いました。

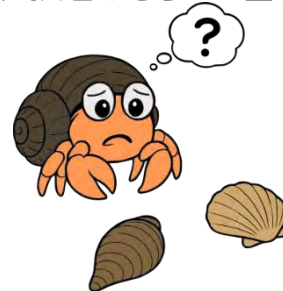
野外観察では、専門が生物ということもあり、ご自身で網やバケツを持参された方や、「カニを撮るために持ってきました」と、望遠レンズ付きのカメラを持参された方もいらっしゃいました。観察が始まるやいなや、先生方は一斉に散らばり、海岸を歩き回って植生調査する先生、アマモ場で熱心に網を振る先生、シュノーケリングで水中を観察する先生と、それぞれの得意分野で活動し、自由にぎやかな光景が広がっていました。多くの分類群の生き物たちを採集することができ、海の生き物の多様性を感じてもらえたのではないかと思います。先生方には、今後も授業などで海辺の生物やさとうみ科学館を活用していただきたいと思います。

やってみよう 見てみよう

「科学研究のまとめ方」の巻

今回は、科学研究のまとめ方のポイントについて紹介します。科学研究をまとめるときは、誰が読んでもわかりやすく書くことが大切です。そのためには、自分の考えや研究内容をきちんと整理しておく必要があります。

ここでは、科学研究のテーマ例として「ヤドカリの物件探し～ヤドカリが好む貝殻を明らかにする～」を取り上げ、研究をまとめる際に大切な9つのポイントを整理しました。科学研究に取り組むみなさんも、ぜひ参考にしてみてください。



①表題

短く・分かりやすく・興味を引く言葉で研究のテーマをひとことで表す！

【例】

「ヤドカリの物件探し」
～ヤドカリが好む貝殻を明らかにする～

②動機、③目的

なぜこの研究をしようと思ったのか、何を調べたいのかを書く。

【例】

「ヤドカリがいろいろな貝殻を背負っているのを見るが、同じ形の貝殻を背負っているヤドカリもたくさん見つけた。どうやって選んでいるのだろう？」「ヤドカリがどのような特徴の貝殻を好んで使うのかを明らかにする。」

④予想（仮説）

自分が今知っていることをもとにして、結果がどうなるのか考えたことを書く。

【例】

「ヤドカリは、自分の体の大きさに合った貝殻を選ぶと思う。」

⑤材料、⑥方法

何を使って、どんなことをしたのか書く。他の人がやっても同じようにできるように書く。

【例】

材料：水槽（観察用）、定規、ノート・カメラ（記録用）
色々な種類の貝殻、貝殻に似ているもの

実験（方法）：

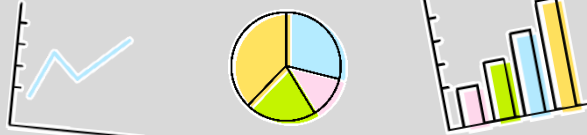
1. 磯へ行き、ヤドカリと貝殻を採集。
2. 水槽に入れ、背負っている貝殻の種類・大きさ・形・その他の特徴を記録。
3. ヤドカリの体の大きさを測定。
4. 数種類の空の貝殻を並べて、ヤドカリがどれに入り直すか観察。
5. 貝殻以外の物にも入るのか観察。

⑦結果

実験や観察の結果をそのまま書く。研究の目的に沿った内容になっているか確認する。
図や表を使うと効果的。

【例】

- ・記録したヤドカリの数：〇〇匹
- ・よく使われていた貝殻の種類：〇〇貝（全体の〇％）
- ・貝殻の大きさとヤドカリの体の大きさの関係をグラフ化
- ・実験で選ばれた貝殻の特徴（大きさ、形、傷の有無）
- ・貝殻以外の物に入ったのか記録を書く



⑧考察

結果を見て、どうしてそうなったのか自分の考えを書く。

【例】

「ヤドカリの大きさと貝の大きさのグラフから、ヤドカリは自分の体にちょうど合うサイズを選ぶ傾向が強かったことが分かった。さらに、貝殻や貝殻以外の物を使った実験により、ヤドカリが選ぶ貝殻の特徴には、●●●があることが明らかになった」

⑨感想

苦労したことや今回の研究を踏まえて次にやってみたいことなど、科学研究に取り組んで感じたことを書く。

◆ 第206回自然観察会 ◆

ウミホタル観察会

夜の海に浮かぶ小さな灯り、その正体は“宝石”のようなウミホタル。観察会でも大人気のこのプログラムでは、簡単な方法で採集し、間近に観察できます。自然が放つ幻想的な輝きに、あなたも出会ってみませんか？

日 時：令和7年9月6日（土）

18：30～20：00

受付時間：18：00～18：30

集合場所：旧能美海上ロッジ駐車場

観察場所：旧能美海上ロッジ周辺

申し込み：令和7年9月4日（木）までに事務局へお申し込み下さい。

持ちもの：懐中電灯、タオルなど

【注意】 小中学生は、必ず大人の人と一緒に参加して下さい。



潮見表 9月の観察に適した日時（干潮時刻と潮位）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
時分	8:39	10:13	1:12	1:52	2:22	2:53	3:24	3:57	4:31	5:06	5:41	6:18	6:56	7:41	8:43
cm	127	138	210	184	158	132	106	82	61	45	37	38	50	72	99
時分	22:00		12:15	13:24	14:13	14:54	15:32	16:09	16:46	17:22	17:59	18:38	19:21	20:17	22:29
cm	226		127	100	71	46	29	23	30	49	80	117	159	197	219
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
時分	10:36	0:44	1:38	2:15	2:48	3:19	3:49	4:17	4:44	5:10	5:36	6:03	6:32	7:06	7:52
cm	115	198	167	138	112	92	76	65	58	55	58	65	79	97	119
時分		12:21	13:27	14:15	14:55	15:29	16:01	16:30	16:59	17:26	17:55	18:25	19:00	19:47	21:28
cm		105	84	66	55	52	58	70	86	106	127	151	176	201	219

cmの数字が小さいほど、よく潮が引きます。

令和7年 潮汐表（海上保安庁）から

潮位30cm未満（白抜き文字）が調査に適しています。

事務局だより

●グラウンドがきれいになりました！

深江まちづくり協議会の方々によって、さとうみ科学館グラウンドの環境整備が行われました。朝早くからたくさんの方々にお集まりいただき、あっという間にきれいなグラウンドに生まれかわりました。この場を借りてお礼申し上げます。



●ニュースレター（カラー版）

右のQRコードよりさとうみ科学館のHPにアクセスいただくとニュースレターをカラーでご覧になれます。最新号の他に過去6か月分のニュースレターを掲載しています。



●休日開館日（9月）のお知らせ

9月も毎週土曜日を開館。開館時間は9:30～17:00（入館は16:30まで）です。詳しくは事務局まで。

江田島市教育委員会 教育部 大柿自然環境体験学習交流館

さとうみ科学館

Satoumi Science Museum (SSM)

〒737-2214

広島県江田島市大柿町深江1073番地1

TEL：(0823) 57-2613

FAX：(0823) 40-3100

メール：satoumimail@yahoo.co.jp

HP：『さとうみ科学館』で検索

◆事務局スタッフ◆

館 長：西原 直久
専 門 員：平山 良太
主 任：鎌崎 賢三
運営指導員：下中 茂樹
運営指導員：峯 哲士
支 援 員：木村 さつき
野コーディネーター：向井 綾香



（友の会会員）

シニア 182名

ジュニア 142名

◆あとがき◆今年の夏は世代や国籍を越えて、多くの方が江田島で自然に触れ、学び合った夏でした。海の豊かさと、人と自然のつながりの大切さを改めて実感できる活動ばかりでした。夏休み後半もまだまだ支援が続きます。（鎌崎）